

# 24日の米国株式市場では主要3指数が大幅続落 —当面、株式市場は神経質な動きが続く可能性—

- 24日の米国株式市場では、NYダウなど主要3指数が大幅続落となりました。
- 安定感を欠く米政権運営や、中間選挙の見通しに対する不透明感、米中貿易摩擦の激化、米金利の上昇、景気の減速懸念、企業業績鈍化懸念などが背景にあるとみられます。当面、米国株式市場は神経質な動きが続くとみられますが、次第に落ち着き所を探る展開になるものと予想されます。

## 24日の米国株式は主要3指数が大幅続落

24日の米国株式市場は、NYダウが前日比608.01ドル安、S&P500指数が同84.59ポイント安、ナスダック総合指数が同329.138ポイント安となるなど、主要3指数が揃って大幅続落となりました（図表1）。下落率は、NYダウが同▲2.4%、S&P500指数が同▲3.1%、ナスダック総合指数が同▲4.4%となりました。NYダウ、S&P500指数が今年10月以来（NYダウ同▲3.1%、S&P500指数同▲3.3%）の下落率となり、ナスダック総合指数は、2011年8月18日以来（同▲5.2%）の下落率でした。

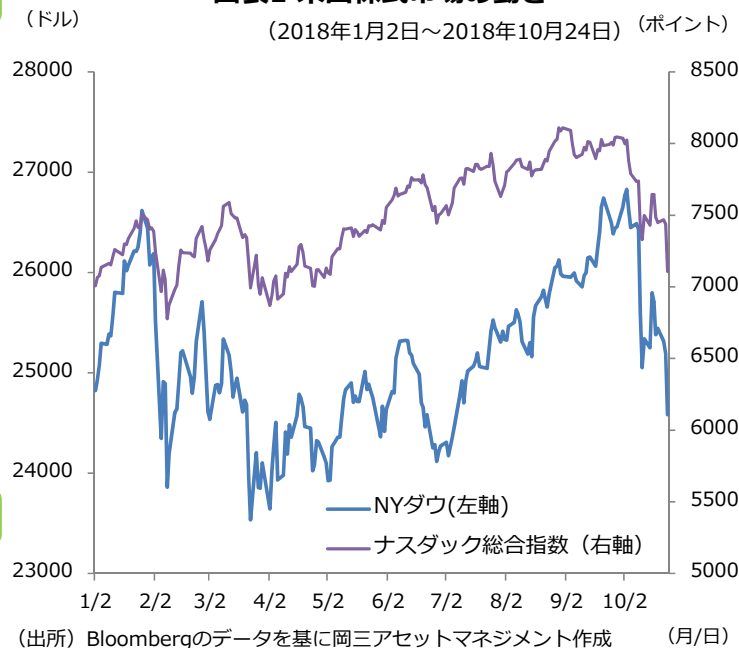
## 株式市場は次第に落ち着き所を探る展開へ

10月以降、米国株は大幅な調整となっていますが、背景としては、米国連大使の突然の辞任表明など安定感を欠く政権運営や、中間選挙の見通しに対する不透明感の強まり、米中貿易摩擦の激化、米金利の上昇、マクロ経済の減速懸念、企業業績懸念などがあるとみられます。

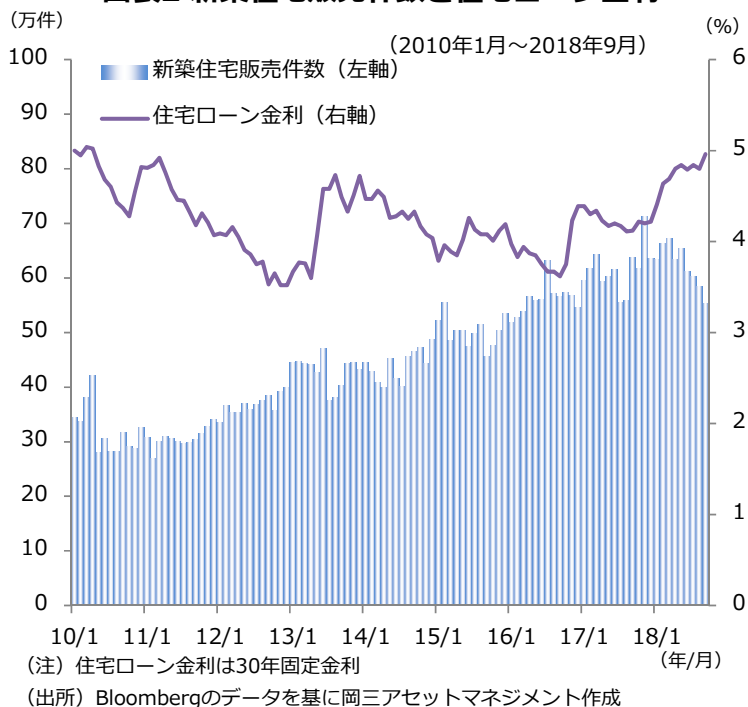
折しも、昨日発表された9月の新築住宅販売件数は、前月比5.5%減の年率55.3万件となり、4カ月連続で減少しました（図表2）。住宅価格の上昇や、住宅ローン金利の高まりを背景に、住宅販売は減速傾向を示しました。また、一部ハイテク企業の決算が予想に届かなかったことや、慎重な業績見通しなどが、株式市場の重石になったとみられます。

株価下落の背景とみられる上記の懸念材料は、当面、払拭できないことから、米国株式市場は神経質な展開が暫く続くことが予想されます。ただ、雇用の安定を背景として消費など内需は堅調であり、米国経済は潜在成長率を上回る成長が続くとみられます。米国株式市場は、次第に、落ち着き所を探る展開になるものと予想されます。

図表1 米国株式市場の動き



図表2 新築住宅販売件数と住宅ローン金利



以上 (作成: 投資情報部)

### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■ 本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■ 本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■ 本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

## 皆様の投資判断に関する留意事項

### 【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等(外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様に帰属します。

### 【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

### 【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用  
**購入時手数料**: 購入価額×購入口数×上限3.78%(税抜3.5%)

- お客様が換金時に直接的に負担する費用  
**信託財産留保額**: 換金時に適用される基準価額×0.3%以内

- お客様が信託財産で間接的に負担する費用  
**運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担**  
 : 純資産総額×実質上限年率1.991088%(税抜1.8436%)程度

※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

#### その他費用・手数料

**監査費用**: 純資産総額×上限年率0.01296%(税抜0.012%)

※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。

(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

### 【岡三アセットマネジメント】

商 号: 岡三アセットマネジメント株式会社  
 事業内容: 投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業  
 登 録: 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号  
 加入協会: 一般社団法人 投資信託協会 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

### <本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)